

第37回原子力委員会定例会議議事録

1. 日 時 令和5年10月24日（火）14:00～14:45

2. 場 所 中央合同庁舎第8号館6階623会議室

3. 出席者 内閣府原子力委員会

上坂委員長、佐野委員、岡田委員

内閣府原子力政策担当室

山田参事官、梅北参事官

東京大学大学院 工学系研究科 原子力専攻原子炉工学講座

出町准教授

東京大学大学院工学系研究科附属レジリエンス工学研究センター

村上准教授

日本原子力研究開発機構原子力人材育成センター

中野センター長

原子力国際協力センター原子力国際協力センター

岸田プロジェクトアドバイザー

日本原子力産業協会人材育成部

中村氏

4. 議 題

(1) J a p a n - I A E A原子力エネルギーマネジメントスクール2023の開催について（東京大学大学院 工学系研究科 原子力専攻原子炉工学講座 准教授 出町和之氏）

(2) その他

5. 審議事項

（上坂委員長）時間になりましたので、第37回原子力委員会定例会議を開催いたします。

本日の議題ですが、一つ目が、J a p a n - I A E A原子力エネルギーマネジメントスク

ール2023の開催について、二つ目がその他であります。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

(山田参事官) 事務局でございます。

一つ目の議題は、J a p a n - I A E A原子力エネルギーマネジメントスクール2023の開催について、東京大学大学院工学系研究科原子力専攻原子炉工学講座准教授、出町和之先生から御説明いただき、その後、質疑を行う予定です。

原子力委員会では、本年2月に決定しました「原子力利用に関する基本的考え方」を踏まえ、その実現に向け注目すべき動向、重要な論点などについてヒアリングを行っています。

本件は、「基本的考え方」の「3.9. 原子力利用の基盤となる人材育成の強化」に関連したものです。

それでは、本日、出町先生はオンラインで御参加を頂いております。御説明をお願いいたします。

(出町准教授) 承知いたしました。御紹介いただきまして誠にありがとうございます。東京大学の出町でございます。

これより、8月22日から9月8日の3週間で開催いたしましたJ a p a n - I A E A原子力エネルギーマネジメントスクールの開催について御報告したいと思います。

なお、今回のホスト機関は、こちらに示しました5者となっております。

まず、原子力エネルギーマネジメントスクール(NEMS)の概要でございますけれども、NEMSの目的は、将来各国のリーダーとなることが期待されている若手人材に、原子力に関連する幅広い課題について学ぶ機会を与えることでございます。対象者は各国の原子力政策、規制組織の担当者、技術者、研究者などとしております。

開催期間は先ほど述べたとおりで、場所は東京大学の山上会館及び工学部8号館ほかとしておりました。

あと、今年の研修生は、外国人研修生が18名、うち女性が12名、日本人研修生が11名、うち女性が1名でございます。

参加国の内訳でございますけれども、ブルガリア、チェコ、エストニアなど、海外13か国と日本の計14か国です。また、日本人研修生の所属の内訳でございますが、電力が4名、メーカーが5名、JAEAから2名でございます。

また、こちらの写真は、初日に撮影しましたスクール開講式の様子でございます。前列の中央に上坂原子力委員長にお座りいただいております。

次に、このスクールの内容について御説明したいと思います。講義の分野は非常に多岐にわたっておりまして、エネルギー戦略、核不拡散、国際法、経済、環境問題、原子力知識管理等々でございます。講義総数は28コマでございました。

そのうち、各国のNEMSのスクールの共通のコアトピックスとありまして、これが21コマでございます。これはIAEAの講師8名が18コマを担当しまして、うち4名が来日して講義をし、ほかの4名はIAEAからリアルタイムでオンライン講義をしていただきました。また、残りの3コマにつきましては、JAEAの日本人講師3名が担当いたしました。

エレクトィブトピックスに関しましては、上坂原子力委員長による日本にける原子力政策、また内閣府の新岡様による日本における緊急時対策を含みます7コマ、日本の実践例7コマを講義していただきました。

この講義のほかにも、グループワークを行っております。今回のグループワークでは、研修生を六つのグループに分けまして、この研修生らが仮想会社の社員となりまして、シナリオプランニング手法を用いて、将来起こるであろう事象の洗い出しと検討を実施するという課題をいたしました。

さらに、この研修生たちは、2050年時点、これから見た2050年時点で、会社が大きく成長するために、どういう事業を展開すべきか、また、どういう会社になっていけばいいか等、会場聴衆を経営層と想定したプレゼンテーションをする、そういう機会を、最終日の前日でございますが設けております。

また、内容の二つ目でございます。こちらは2週目の予定を使いまして、テクニカルツアーを実施いたしました。今回、これら六つの施設を訪問しております。そのプログラムはこちらのようになっております。

今回の日本の場合、特に29日と31日でございます東京電力の福島第一、第二原子力発電所の訪問というのが、ほかのNEMSにはない日本だけの目玉となっております。この見学によって、廃炉の状況を確認するとともに、さらには、周辺の福島の町の復興を直で見てみるということもできております。

こちらの写真は、その施設見学の様子を写したものでございます。福島水素エネルギー研究フィールドでは、水を電気分解して水素を作る水電解装置とか、水素を圧縮する水素貯蔵、供給設備、また、圧縮した水素を輸送する輸送車両などを見学いたしました。

中間貯蔵工事の情報センターでは、帰宅困難区域内の見学や、除染で発生した土壌の埋立

処分施設等を見学いたしましたして、埋め立て地に行きました。またサーベイメーターのモニタリング等の実施も行いました。

ほかにも JAEA さんの原子力科学研究所 (ISCN) など、また大洗研究所では、例えばバーチャル空間上に構築した仮想施設内で核セキュリティ、保障措置関連の実習を疑似体験するとともに、HTTR とか常陽さんを見学させていただきましたして、例えば高温熱を用いて水から水素を製造するという技術の説明も受けました。

また、目玉の東京電力の福島第一、第二発電所の方の見学では、第一の方では1号機から4号機までの廃炉状況を見させていただいたと思うのですね。ALPS 処理水についても御説明いただきました。

第1の企画であります特別講演では、第1週の金曜日の午後、IAEAの核燃料サイクル廃棄物技術部長の Olena Mykolaichuk さんに来ていただきまして、「Gender Equality in Nuclear Industry」というタイトルで、IAEAにおけるジェンダー平等ポリシー、女子学生を支援する制度も紹介していただくとともに、研修生と意見交換を行っていただきました。

また、第2の企画である卒業生セッションも実施いたしました。これは最終日の前日の午後、1時間ぐらい使ったのですけれども、過去のNEMSの卒業生の方に登壇いただきまして、NEMSに参加したことによって、どういうふうにそれがその後のキャリアに役立ったかという話を紹介していただくとともに、直で意見交換もしていただきました。

また、こちらは最終日、NEMSの研修生の方々にアンケートをお願いして頂いた結果でございます。こちらは実は項目は各国のNEMSと共通の項目でございますけれども、8項目ございまして、それぞれ5点満点ということで点数を付けていただきました。

今年は日本のこのNEMスクールの総合評価は4.8点でございました。かなり高評価だったというふうに考えております。ちなみに、去年はこちら4.5点だったのですね。それに比べると0.3ポイントでございますが、上昇しておりますして、今年も成果が目に見えたかなというふうに思っております。

また、このアンケートと同時にコメントも記載いただいております。ほとんどのコメント、その抜粋はこちらですけれども、ほとんどが前向きというか、ポジティブな評価を頂いているのですけれども、中には一つ、二つ、日本人講師の英語の発音が聞き取りにくかったとか、また、遠隔講義よりもやっぱり対面の方がいいという、少しネガティブな意見も若干ございました。

以上、御報告の内容を最後に五つにまとめさせていただきました。「まとめと来年のスクールに向けて」ということをごさいます。

一つ目が、4年ぶりに新型コロナウイルスの感染症防止対策を取らずに、対面形式で講義とか施設見学等を実施できましたので、そのことによって、先ほどのアンケートに出ています高い評価を得られたと考えております。

幾つかネガティブな意見もありましたが、IAEAの一部講師の方が、遠隔の講義だったとはいえ、ビデオではなく、リアルタイムで講義を行っていただくために、プログラムを工夫しまして、双方向性を確保いたしました。

三つ目でございますけれども、2週目のテクニカルツアーで、ALPS処理水の海洋放出で注目されている東京電力さんの福島第一発電所を含め、その他も多く施設も見学させていただきました。これが日本の特徴ではあるのですが、このことによって研修生さんから口々に、やはり百聞は一見にしかずというような、直接見られてよかったという評価を高く頂いております。

また、企画セッションでNEMS卒業生同士、過去の卒業生さんと今の研修生さんがネットワークを広げる試みとしまして、卒業生セッションというものを企画しまして、どういうふうに役立ったとか、また、意見交換するような場を設けさせていただきました。

五つ目、最後ですけれども、テクニカルツアー、日本の独自のプログラムへの評価は高いです。次回以降、今後は日本の状況の発信をより強化したプログラムを検討して、日本の独自色を強くしていきたいと。また今回、日本人参加者が1名だけだったので、今後は日本人女性参加者増加に向けての対策を講じていきたいと考えております。

最後でございます。こちらは参考資料ですけれども、こちらに18名の今回の講師の先生方のお名前と御所属、また講義の時系列を順に並べさせていただきました。

御説明は以上でございます。御清聴いただきまして誠にありがとうございます。

(上坂委員長) どうもありがとうございました。

それでは、事務局の方から補足がありますのでお願いします。

(山田参事官) 本日は出町先生に御説明いただきましたが、説明補助者の方がオンラインで参加されていますので、御紹介いたします。

東京大学大学院工学系研究科附属レジリエンス工学研究センター、村上様、日本原子力研究開発機構原子力人材育成センター、中野様、原子力国際協力センターの岸田様、日本原子力産業協会人材育成部の中村様、以上4名の方が説明補助者として入っております。

(上坂委員長) ありがとうございます。

それでは、原子力委員会から質問させていただきます。

それでは、佐野委員、よろしくお願いします。

(佐野委員) 御説明ありがとうございました。原子力関係の各国における言わば中堅指導者の方々に対して、改めて学ぶ機会を提供するのは、非常に有意義なことだと思います。

これが10回で以上続いており、内容も充実していると思受けられます。

それから、特にオンサイトへの訪問がうまく組み込まれていて、大変バランスのとれたプログラムと思います。我々もよく出張する際に、会議で何が話されたかもさることながら、どこを訪問したかが、むしろ記憶に残っているわけで、そういう意味では、特に日本の場合、福島を見ていただくのは、中堅指導者の将来にとって大変意義のあることだと感じます。

今後の改善点としては、7ページに書かれているコメント、若干辛いコメントもあるようですが、そういう面も取り込んでいく形で改善していけるのではないかと考えます。

質問は、このNEMSの全体像、つまり全世界で何か国がこのNEMSを実施しているのでしょうか。

(出町准教授) たしか今、NEMスクールは全世界で4か所あると思います。その中でいうと、ほとんどのスクールが、ここに書きましたように、まずはコアトピックス、IAEAが指定しますトピックスについて、主にIAEAの講師が行うということ、これは全てほかのNEMスクールの共通の内容でございます。

その中でも特に、数は21と比べるととても少ないのですが、各国の実践例とかを含めて、各国の特徴を見出すような講義を行っております。特に今回、日本の場合、2011年の福島事故がございましたので、福島事故の教訓を生かしていく講義を、これまで主に行ってきました。今後は、もう事故から10年たちましたので、今後はもう少し前向きな内容についても、今後は増やして、更に日本の特徴とすることを検討してございます。

(佐野委員) ありがとうございます。

この4か国というのはどこですか。5か国ですか、日本を含めて。

(上坂委員長) 出町先生、世界のほかのNEMSの状況、場所でそれぞれ回数ほどのくらいかです。お願いします。

(出町准教授) 各国の開催の回数について、中野さん、補足いただけますでしょうか。

(中野) JAEA、中野でございます。

4か国より多くて、過去に開催された国として、例えば南アフリカですとか、ロシアですとか、あとはイタリア、去年は中国でも開催されました。あとアメリカ、チリ、そういった国々、あとほかにもあったかもございません。ちょっと今資料を探しているのですけれども、見つけれられておりません。

そういった感じの国で開催されておまして、これからまたほかに開催したいという国も増えてきている、例えばフランスなども開催したいという声が出ておりますし、非常に今後開催国が増えていくと記憶してございます。

(佐野委員) ありがとうございます。

(上坂委員長) それでは、岡田委員、お願いします。

(岡田委員) 出町先生、御説明ありがとうございます。私は特別講義のところをお聞きしたいと思っております。6ページです。この特別講義にジェンダーバランス、E q u a l i t yを採用した経緯と、それから、学生からどういう意見が出たかというのをお話しいただきたいのですが、よろしくをお願いします。

(出町准教授) 承知いたしました。

こちらはもともと、IAEAから行っていただく講義は、候補があったのですが、ちょうどMyk o l a i c h u kさんが当日、日本に来日しているという情報を得たので、連絡を取らせていただきまして、このNEMSの中で講義を行っていただくということをお願いいたしました。

それが経緯の一つ目でございます、もう一つが、実は開催場所は数年、東京大学でやっていますが、東京大学が掲げている行動基準というのが四つございます。四つの柱の一つがジェンダー平等というものなのです。

そういう二つのポイントで、たまたま当日来日していただいていることと、東京大学の柱の一つはジェンダー平等であることから、このMyk o l a i c h u kさんに御講義をお願いして、さらにジェンダー平等については御講義を頂くということをお願いしたというのが経緯でございます。

(岡田委員) それでそのときの意見交換の意見はどういうのがあったか、少しで構わないので、よろしくをお願いします。

(出町准教授) 今の御質問はどういう意見が出たかということでございますでしょうか。

(岡田委員) はい、そうです。

(出町准教授) ありがとうございます。

残念ながら、この講義は公開講義とさせていただいたのですね。なので、実は今回NEMスクール以外の方々の御参加がなくて、聴講者はNEMスクールと我々スタッフに限られたのですけれども、例えば女子が今後、原子力の場でどういうふうにステップアップしていくかという、そういう例につきまして、活発に質問があったと記憶してございます。

(岡田委員) ありがとうございます。

もう一つ、6ページの下の卒業生セッションのところをお聞きしたいのですが、この過去の卒業生というのはリモートで参加したのでしょうか。

(出町准教授) はい、リモートでございます。

(岡田委員) この卒業生というのは、日本人なのでしょうか。海外の方なのでしょうか。

(出町准教授) 日本人と海外両方だったというふうに聞いております。

(岡田委員) こういうのは非常に大事なかなと思いますので、今後よろしくお願いします。あと人材育成の強化ということで、今回このお話をさせていただいたのですが、日本人にとってこういうNEMスクールというのは、どういう効果があると思っていられるでしょうか。

(出町准教授) ありがとうございます。日本人にとってのこのNEMスクールの効果でございますね。

この最初の方に掲げさせていただきましたこのNEMスクールの目的でございますけれども、将来各国のリーダーとなる若手人材に幅広い知識を与えるということなのですが、これが一般的なNEMスクールの研修生、外国人を含む研修生に対する目的でございます。

特に日本の場合、この目的に加えまして、各国の原子力政策の担い手となる若手の方々との交流を持っていただくということ、もちろん学ぶということも一つの大きな目的でございますけれども、特に日本人研修生に対しましては、各国の方々ともこういう密接な関係を持っていただくということを大きな目的としております。

各国は毎年、今回11回目になりますが、日本の研修生の方々から、今でも過去にやった、今でも過去に参加したNEMスクールの方々と、今でもメールでやり取りしていますとか、時々会ったりする機会があって、昔を懐かしんでおりますみたいなことを言うくださる方もいらっしゃいますので、一定の効果を得ているものと考えております。

(岡田委員) ありがとうございます。これで私から最後になりますけれども、来年は女性を是非増やしてほしいと思います。

(出町准教授) 女性の増加についてのコメントと承りました。最後の方に、また対策を講じる

というふうに書いていますが、具体的に徐々に日本の女性参加者が増えるように、スタッフの方で対策したいと思っております。

(岡田委員) よろしく願いいたします。以上です。

(上坂委員長) それでは、上坂からも幾つか質問させていただきます。

まず、先ほどの佐野委員の質問にも絡むのですが、日本では2012年から始まって11回目。その2年前にイタリアのトリエステでIAEA、NEMSオリジナル版が始まった。今は13年目になっていると思います。それから、アメリカ、テキサスA&Mとか、あとロシアのモスクワ国立工科大とか、あとアフリカのUAEのカリファ大学、南アメリカの2大学とか、地域毎に幾つか、4、5シリーズ、並行に走っているという理解であります。

それで、その中で先生方を始め、実行委員会と日本人材育成ネットワークが総力を挙げての運営体制ゆえ、IAEAからも日本のものは、一番その中で運営がいいNEMスクールであるというふうにお褒めの言葉を頂いていると思います。

今回、4年ぶりに完全対面実施の成功、大変お疲れさまでございました。

それで、幾つかNEMSが世界中で走っているので、6年ほど前にこのカリキュラムの標準化の議論がありました。その際、約70%はIAEA主導で、30%が日本の特徴。それで当初、事故直後は、福島事故の現場対応とか、クライシスマネジメント、それから反省、教訓、廃炉。そういう講義が多かったのです。それから、もちろん福島の見学が日本の特徴です。もう事故後12年半たちましたので、日本の原子力政策も進展して、再稼働も進み、次世代革新炉の建て替えに向けた検討。それから、海外のSMRや第4世代革新炉プロジェクト参画などが進行しておりました。それらを反映したカリキュラムがもう入ってきているのかと。

2ページを見ますと、エレクトィブトピックスの下の二つは、非発電への応用と、それからSMRの開発。これらをメーカーの方やJAEAの方が講義されている。そういう方向で、再稼働、新たな次世代革新炉開発と、そういう方向にゆっくりとシフトはしているのでしょうか。

(出町准教授) ありがとうございます。今、御指摘いただいたとおり、過去、事故直後から比較的日本の特徴ということもございまして、事故後の反省という観点を多く取り込んだエレクトィブトピックスを実施してまいりました。

ただ、もう事故から12年たっておりまして、そろそろ反省ばかりではなくて、徐々に日本の明るいトピックス、例えばSMRとか、又は様々な応用とか、日本の特徴を生かした

応用技術とか、反省ばかりではない日本の特徴、前向きな特徴につきましても、このエレクトィブトピックスの中でどんどん組み込めるようにしていくよう、次回以降検討したいと考えてございます。

(上坂委員長) ありがとうございます。その意味で、第2週の3ページを見ています。本当に充実した東海と福島での実習で、もうどこにも新しいものが入る余地もないような気もしますが、例えば再稼働という意味では、順調にいけば、東北電力の女川2号炉が来年の夏には再稼働している予定であります。見学、若しくはヒアリングを検討できないものかと思った次第です。

また、女川2号炉では、津波対策がうまくいき、地元住民の方々の避難所の役割も果たしました。事故対策、防災、それから安全、地域への貢献。そしてBW再稼働と、新しい再稼働のトピックは多々だと思います。ただ、この3ページの今のプログラムを見てみると、どこに入るのかなというのがとても難しいかなと思っております。来年のプログラムに、検討候補の一つに入れていただくと、幸いです。いかがでしょうか。

(出町准教授) ありがとうございます。第2週目に行いましたこのテクニカルツアーのプログラム、今年はこのようにさせていただいたのですけれども、来年再稼働を恐らく果たす東北電力さんの女川発電所も、多少距離はございますけれども、同じエリアではございますので、まだこれからツアーのスケジュールの検討の中で、積極的に女川も候補に入れさせていただきたいと思います。

御指摘いただきまして、誠にありがとうございます。

(上坂委員長) 2ページの下グループワークですけれども、今までのテーマ設定は、原子力安全とか社会受容性とか、あと放射線応用もあったかと思えます。そういうテーマで議論して発表いただいたと思います。今回はスタートアップがかなり主で、そこに絞っていたような内容のように見受けられますが、その狙いと効果はいかがだったでしょうか。

(出町准教授) 今回、このシナリオプランニングを用いまして、各研修生の方々がテーマを選んで、グループごとにテーマを選んで、こういう将来の仮想会社として、これからどういうふうにするかというマネジメントの視点を重視した、実践的なグループワークとさせていただきました。

今回、学生たちが選んだテーマの半分ぐらいが、廃棄物処理に関するテーマでした。残りが、今後の原子力に関わる新しい技術の開発というものを、ほかのグループが選んでおります。各グループとも非常に真剣に考えておりまして、廃棄物の処理について、技術的な

面のみならず、どういうふうなサイクルをしていくかという、非常に画期的な考えもあったかと思って驚いております。

この中で特に検討することもさることながら、このグループワークを通じまして、もともとの目的の一つでございます研修生さん同士が関係を深めていくという効果も、非常にあったものと見受けております。そういう意味でもグループワーク、これまでも実施してございましたけれども、今回も大きな効果が得られましたように、今後も続けていきたいと考えております。

(上坂委員長) ありがとうございます。私は実は7月に東工大で行われたニュークリアイノベーションブートキャンプという、人材育成プログラムに講師として参加しました。アメリカから30名ぐらいの大学院生、それから、日本から数名の大学院生が加わっていました。これも3週間ぐらい。その中で、グループワークがあって、やはり原子力スタートアップがテーマで、いろいろビジネスの専門家から講評があったようであります。これが最近の一つのトレンドかなと実感した次第であります。

次に、今回第2週の福島研修の週のとときに、これは3ページ。第1回目のALPS処理水の放出が行われました。それで、そのときの参加者、特に海外からの参加者の印象とか感想はいかがでしたでしょうか。特に、是非自国に帰って、彼らが見たこと、感じたことを伝えていただいて、そしてその安全性を発信していただけるということも期待したところでございます。いかがでしたでしょうか。

(出町准教授) ありがとうございます。実は私自身がこのツアーには同行しておりません。ただ、同行した者から聞いたところによりますと、このALPS処理水の説明を頂きまして、報道等では言われているようなネガティブなものではなくて、現場で実地の説明、真のALPS処理水の状況、問題、考えるべき点、ポイントについてよく理解できたということ、研修生から聞いたということ伺っております。

そういう意味では、彼らが国へ戻りまして、正しい情報を発信してくれる、そういうソースになってくれることを強く期待しております。

(上坂委員長) ありがとうございます。

それから、9事後ですけれども、9月末にあったIAEAの総会のとときに、先ほど冒頭お話ししました、世界中で行われているNEMSシリーズの合同のサイドイベントが行われました。私はほかの会議と重なって、出席できていなかったのですけれども、そのときの内容と日本のプレゼンスはいかがでしたでしょうか。

(出町准教授) 実はこの総会に私自身は参加しておりませんが、J I C Cの方が、パネラーとして参加したということでございました。ほかにパネラーの方が南アフリカ、ブラジル、あとベルギーからほかのパネラーが入って発表したということでございます。

こちら、サイドイベントだということだと思います。参加者は約40名です。この中で特にNEMSの観点からいいますと、このサイドイベントの中で、NEMスクールの各国のOBとかOGの方々が、例えばIAEAさんの方の職員となって、どういうふうに活躍されていますよという紹介があったというふうに伺っております。

また、ちょうどこのサイドイベントでOB、OGの紹介があったとともに、ほぼ同じ時期に、日本でもこの卒業生の交流セッションがあったということで、非常に特徴的な卒業生との交流、紹介が、非常に印象的だったという良い評価を、IAEAのアレシアさんからも頂いております。

(上坂委員長) ありがとうございます。今週、IAEA・NEMSの以前の、日本人参加者に対して、IAEA職員へのリクルートの説明会の案内が出て、私のところにもメールのCCが来ました。是非、国際機関で働く日本人を増やすということも、非常に重要なことなので、NEMSに参加した日本人が、IAEAに勤めていただけると、よろしいかと思えます。

(出町准教授) ありがとうございます。今後、もしも一助に、このNEMスクールの手助けできたのであれば、非常に誠に幸いです。

(上坂委員長) 私も総会に出ていたのですが、日本レセプションは毎年あるのです。その際に、毎年、NEMSに参加したという各国の方から挨拶を受ける。これも非常にうれしいことでもあります。ですので、今回、サイドイベント、NEMSに関するものがあつた。今後、是非これを続けていただいて、NEMSの同窓会、ALUMNIセッションをIAEAと共同で企画して行ってほしいと思います。

また、日本では必ずやっている、NEMSの最後の方でやるALUMNIセッションで参加された方も含めて、彼らの体験や印象、あるいは後輩への勧めを、例えば日本原子力学会誌等に記事でまとめていただいて、PRしていただくとよろしいかと思えます。いかがでしょうか。

(出町准教授) 今後いかにNEMS活動をPRしていくかでございますけれども、幾つか案はあると思いますが、例えばこの活動を原子力学会誌などに、主に日本原子力学会誌などは日本人の研修生に限ると思います。例えば特設のページを作っていただくなどして、あま

り負担にならない形で、毎年1人1ページずつ原子力学会誌に掲載させていただくという形で、例えばNEMSの紹介をさせていただくとか。これは日本向けでございます。

また、ホームページも充実して、このNEMSの活動を世界各国にアピールしていくと、そういうことも今後可能かと考えております。検討していきたいと思っております。

御指摘いただきまして、誠にありがとうございます。

(上坂委員長) ありがとうございます。

それから、ちょっと回線で聞こえなかったかもしれませんが、是非、今回のような総会時のサイドイベントや同窓会といったものも、IAEAと協力して続けていただければと思います。

(出町准教授) 今後も総会におけるサイドイベント等々、積極的に貢献していきたいと思っています。ありがとうございます。

(上坂委員長) 最後ですけれども、これも一つの提案です。今福島の方で、福島国際研究教育機構(F-REI)が設立されています。その5番目の分野が、原子力災害に関するデータの知見と集積と発信であります。そこにはIAEA、OECD/NEAとの共同もスコープにあります。JAEAも主メンバーとして参画しています。

来年、これも3ページの下プログラムを見て、一体どこに入るのかなと、とても心配になってしまうのですが、NEMSとF-REIとの合同セッションをやっていただけないか。その様子や結果を、このF-REIから世界に発信していただけると、双方のPRになるかと思っております。いっぱい言って大変恐縮ですけれども、様々な可能性の候補の一つに入れていただければと思いますが、いかがでございましょうか。

(出町准教授) ありがとうございます。今、福島国際研究機構(F-REI)が今年4月に発足したのですけれども、近くのエリアでございますので、第2週目の見学先に検討ということ、原子力委員長先生からの御提案でございますので、積極的に来年度に向けて検討したいと思います。ありがとうございます。

(上坂委員長) 私からの質問、意見は以上でございます。

ほかに委員の方から御質問とか意見はないですか。

それでは、出町先生、どうも御説明ありがとうございました。また実行委員会の皆様も、本当にありがとうございました。

(出町准教授) ありがとうございました。貴重なお時間を使いただきまして、誠にありがとうございます。

(上坂委員長) 御苦労さまでございました。

それでは、議題1は以上でございます。

次に議題2について、事務局から説明をお願いいたします。

(出町准教授) では、これにて失礼いたします。

(上坂委員長) どうもありがとうございました。

(山田参事官) それでは、議題2です。今後の会議予定について御案内いたします。

次回の定例会につきましては、10月31日火曜日、14時から、場所はこちら8号館6階、623会議室でございます。

議題については調整中であり、原子力委員会ホームページなどによりお知らせいたします。

以上です。

(上坂委員長) ありがとうございます。

その他、委員から何か御発言はございますでしょうか。

御発言がないようですので、これで本日の委員会を終了いたします。

お疲れさまでした。ありがとうございました。